

エコアクション21

環境経営レポート

2024年度版

(対象期間： 2023年 10月 ~ 2024年 9月)

1. 環境経営方針	3
2. EA21実施体制	4
3. 事業概要	5
4. 環境負荷目標と実績	6
4-1. 環境負荷目標	6
4-2. 過去3年間の主な環境負荷の実績比較	7
4-3. 環境経営目標の達成状況	7
5. 環境負荷の推移と評価	8
6. 環境経営計画及び取組結果とその評価	10
7. 次年度の環境経営計画	11
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認	12
8-1. 環境関連法規	12
8-2. 違反・訴訟等	12
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	13

株式会社ユーテムプレジジョン 東北工場

環境レポート発行日：2024年12月26日

1. 環境経営方針



環境経営方針

【企業理念】

ユーテムプレジジョンは機械器具工具製造メーカーとして設計・加工・組付けまで一貫した「ものづくり」を追求し、加工技術品質を向上することにより安定したコストでお客様の要望に応えることのできる製品の製作に取り組み、「収益を上げ続ける企業」になることを目指します。

【環境経営の指針】

私たちは企業理念に基づき、事業活動を通じて環境への影響を認識し、お客様や社会の環境保全活動に貢献する為当社の環境マネジメントシステムを構築し、維持・継続的な改善に努めます。特に品質の徹底により、お客様に喜ばれる製品の供給ができる仕組みを作ります。そして環境経営の取組にあたっては環境関連法規等を遵守し、全従業員による営業活動を実施すると共に環境経営の継続的な改善を図ることを誓約します。

【環境経営への基本的方向】

1. 当社は事業活動の実態に鑑み、事務用品・段ボール等、廃棄物及びリサイクルを推進して、更に「二酸化炭素の排出の低減」「水の使用量・排出量削減」及び電力・ガソリン等エネルギーの有効活用に努めるとともに、日々の営業活動を通じて環境負荷の低減を図ります
2. 5S活動による職場環境の整備を行います
3. 環境経営マネジメントシステムを構築し、継続的改善及び汚染の予防を図ります
4. 事業活動にあたり環境関連法規等を遵守することを誓約します
5. 化学物質の危険性を周知し、適切な管理に努めます。また拡散防止の為、事故緊急時の訓練も実施します
6. グリーン調達促進として環境配慮製品の使用を積極的に行い、社会共存を図ります
7. 事業活動にあたり、製造工程の無駄を排除し、新たな規範を構築します

環境経営システムを運用し、全従業員に周知すると共に環境活動レポートとしてとりまとめ対外的に明示します。

制定日：2012年7月01日
改定日：2015年11月01日
改定日：2020年06月01日
改定日：2022年11月01日
改定日：2024年10月01日

株式会社ユーテムプレジジョン東北工場

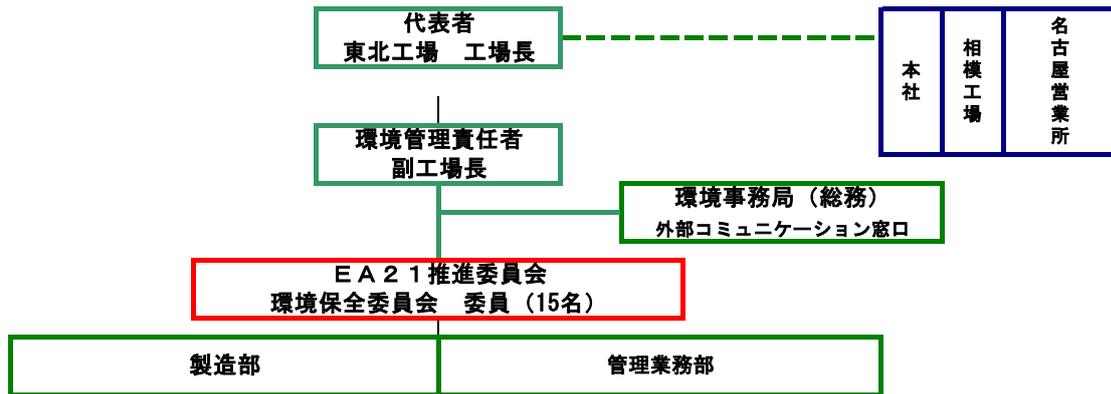
工場長 宇那田 裕



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



2. EA21実施体制



役割・責任・権限	
代表者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 経営における課題とチャンスの明確化 環境経営方針の策定・環境への負荷と取組状況の把握及び評価 環境経営目標環境経営計画の承認 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 実施体制の構築及び全従業員への周知 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境目標、環境活動計画書を確認 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境活動の取組結果の確認・評価、問題点の是正及び予防を代表者へ報告 環境経営レポートの承認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境活動の実績集計 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境目標、環境活動計画書の取りまとめ 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
EA21推進委員会 (環境保全委員会)	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動計画の審議 環境活動実績の確認・評価
部門担当者	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境方針の周知 自部門に関連する環境経営計画の策定・実施及び達成状況の報告 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の特定された事故及び緊急事態への対応のための手順書作成・訓練を実施及び記録の作成 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門の問題点の発見、是正、予防措置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決定事項を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

3. 事業概要

事業者名及び代表者

事業所：株式会社ユーテンプレシジョン
代表者：取締役社長 松本 秀文

所在地

本社：神奈川県座間市ひばりが丘4丁目21番1号
相模工場：神奈川県座間市ひばりが丘4丁目21番1号
東北工場：岩手県奥州市前沢向田2丁目8（2008年認証取得） ←認定対象事業所
名古屋営業所：愛知県名古屋市中区栄3丁目7番13号
コスモ栄ビル 9階

事業内容

工具・治具の設計製造

スペシャルツール／ツーリング／保持具、クイックチェンジ方式／フライス工具／標準品／金型部品／治具部品／電着品／セラミックの研磨加工等／全般の設計製作／販売

環境管理責任者及び連絡先

【本社・相模工場・名古屋営業所】

環境管理責任者 相模工場 工場長 藤森 泰隆
E A 2 1 事務局 総務部 課長 稲見 聡
連絡先（電話） 046-251-8833

【東北工場】

環境管理責任者 副工場長 佐藤 新一
E A 2 1 事務局 管理業務部 総務担当者
連絡先（電話） 0197-56-3825

←認定対象事業所

事業規模

【資本金】 8,800万円

単位	2022	2023	2024
売上高 百万円	1,461	1,605	1,464
生産高 百万円	851	944	943

事業所	従業員数	延べ床面積	敷地面積
本社	24 名	248 m ²	5,800 m ²
相模工場	14 名	2,952 m ²	
名古屋営業所	2 名	90 m ²	90 m ²
東北工場	97 名	3,798 m²	15,500 m²

←認定対象事業所

事業年度

2023年10月1日 ~ 2024年9月30日

「エコアクション21」認定対象範囲の概要

平成25年3月 本社・相模工場・名古屋営業所認定済み
平成25年6月 全組織取得完了

【認定対象事業所】

東北工場

【環境レポート対象期間】

2023年10月1日 ~ 2024年9月30日

【環境レポート発行日】

2024年12月26日

4. 環境負荷目標と実績

目標設定項目 ※環境効果原単位 =環境負荷÷生産金額	単 位	基準値 2019年 実績	CO2 換算係数	2024年	中期目標	
				目標	2025年 目標	2026 目標
電力使用による 二酸化炭素排出量削減	削減率	基準値に対し		5.0%	6.0%	7.0%
	kg-CO2	932,815	東北電力	886,174	876,846	867,518
	原単位	8.60	0.46	8.17	8.08	8.00
	原単位比	100.0%		95.0%	96.0%	97.0%
自動車燃料使用による 二酸化炭素排出量削減 *基準年2022年度へ変更	削減率	基準値に対し		2.0%	3.0%	4.0%
	kg-CO2	724	ガソリン	710	702	681
	原単位	0.0085	2.32	0.0083	0.0082	0.0080
	原単位比	100.0%		98.0%	97.0%	96.0%
灯油使用による 二酸化炭素排出量削減 ※令和2040年までに全廃	削減率	基準値に対し		100.0%	100.0%	100.0%
	kg-CO2	0	灯油	0	0	0
	原単位	0.00	2.49	0.00	0.00	0.00
	原単位比	0.0%		100.0%	100.0%	100.0%
LPG使用による 二酸化炭素排出量削減 ※2043年までに全廃	削減率	基準値に対し		5.0%	6.0%	7.0%
	kg-CO2	78	LPG	74	73	73
	原単位	0.00072	3.00	0.00068	0.00068	0.00067
	原単位比	100.0%		95.0%	96.0%	97.0%
エネルギー消費による 二酸化炭素排出量合計	削減率	基準値に対し		5.0%	6.0%	7.0%
	kg-CO2	933617		886,936	877,600	868,264
	原単位	8.61		8.18	8.09	8.01
	原単位比	100.0%		95.0%	96.0%	97.0%
一般廃棄物排出量の削減	削減率	基準値に対し		5.0%	6.0%	7.0%
	kg	29,020		27,569	27,279	26,989
	原単位	0.27		0.26	0.25	0.25
	原単位比	100.0%		95.0%	96.0%	97.0%
産業廃棄物排出量の削減	削減率	基準値に対し		5.0%	6.0%	7.0%
	kg	79,910		75,915	75,115	74,316
	原単位	0.73		0.69	0.69	0.68
	原単位比	100.0%		95.0%	96.0%	97.0%
水道水使用量の削減	削減率	基準値に対し		5.0%	6.0%	7.0%
	m ³	1,354		1,286	1,273	1,259
	原単位	0.0124		0.0118	0.0117	1.1532
	原単位比	100.0%		95.0%	96.0%	97.0%
化学物質適正管理 (鋼材含有量除く) ※化学物質取扱無し	削減率	基準値に対し		100.0%	100.0%	100.0%
	kg	0.00		0.00	0.00	0.00
	原単位	0.00		0.00	0.00	0.00
	原単位比	0.0%		100.0%	100.0%	100.0%
不良率の削減	削減率	基準値に対し		5.0%	6.0%	7.0%
	万円	508		483	478	472
	原単位	0.0047		0.0045	0.0044	0.0044
	原単位比	100.0%		95.0%	96.0%	97.0%
グリーン購入比率の向上	件数	既存品切換え		年1件以上	年1件以上	年1件以上
環境配慮型事業活動① ゼロミッション推進	定性目標	廃棄物のリサイクル率 アップ/流通ロ改善		年1件以上 実施	年1件以上 実施	年1件以上 実施
環境配慮型事業活動② SDGsの実践	定性目標	社会課題への 対応・取組み		年1件以上 取組み	年1件以上 取組み	年1件以上 取組み

※ 二酸化炭素排出係数は東北電力実績の2020年度のCO2排出実績（調整後排出係数）を適用した。

※ 年度表記は弊社の10月～9月の会計年度と同一期間を適用した。

※ 自動車使用による二酸化炭素排出量削減は基準値を2022年度へ変更した。

■ 4-2. 過去3年間の主な環境負荷の実績比較

項目	単位	使用量総量			環境原単位（生産金額万円当り）		
		2022年	2023年	2024年	2022年	2023年	2024年
年間生産金額	万円	85,055	94,358	94,953	851	944	950
二酸化炭素排出量	kg-CO2	714,577	774,836	731,207	840	821	770
廃棄物排出量	kg	58,363	56,858	64,215	69	60	68
一般廃棄物排出量	kg	22,528	26,218	35,355	26	28	37
産業廃棄物排出量	kg	35,835	30,640	28,860	42	32	30
上水使用量	m ³	1,295	1,211	1,329	1.5	1.3	1.4
総排水量	m ³	1,295	1,211	1,329	1.5	1.3	1.4
化学物質使用量	kg	0	0	0	0.0	0.0	0.0

■ 4-3. 環境経営目標の達成状況

設定項目	単位	基準値 2019年 実績	2024年			備考
			目標	実績	評価	
※環境効果原単位 =環境負荷÷生産金額						
電力使用による 二酸化炭素排出量削減	削減率	基準値に対し	5.0%	10.6%	○	10.6%の削減
	kg-CO2	932,815	886,174	730,100		
	原単位	8.60	8.17	7.69		
自動車燃料使用による 二酸化炭素排出量削減 *基準年2022年度へ変更	削減率	基準値に対し	2.0%	-35.3%	×	短納期対応や 地元取引先の拡大 新規取引先打合せ
	kg-CO2	724	709	1,092		
	原単位	0.0085	0.0083	0.0115		
灯油使用による 二酸化炭素排出量削減	削減率	基準値に対し	100.0%	-	○	灯油不使用に成功
	kg-CO2	0	0	0		
	原単位	0.00	0.00	0.00		
LPG使用による 二酸化炭素排出量削減	削減率	基準値に対し	5.0%	78.5%	○	LPG使用廃止に 近づいている
	kg-CO2	78	74	14.7		
	原単位	0.00072	0.00068	0.00015		
エネルギー消費による 二酸化炭素排出量合計	削減率	基準値に対し	5.0%	10.6%	○	10.6%の削減 個別目標は非達成だったが エネルギー消費トータルは 達成
	kg-CO2	933,617	886,936	731,207		
	原単位	8.61	8.17	7.70		
一般廃棄物排出量の削減	削減率	基準値に対し	5.0%	-37.9%	×	目標未達 工場内の5S活動 (整理)の影響が大きい
	kg	29,020	27,569	35,355		
	原単位	0.27	0.26	0.37		
産業廃棄物排出量の削減	削減率	基準値に対し	5.0%	58.4%	○	汚泥の廃棄量が 減少した
	kg	79,910	75,915	28,860		
	原単位	0.73	0.69	0.30		
水道水使用量の削減	削減率	基準値に対し	5.0%	-12.9%	×	年度後半に漏水が 発覚した影響が 大きい
	m ³	1,354	1,286	1,329		
	原単位	0.0124	0.0118	0.0140		
化学物質適正管理 (鋼材含有量除く) ※対象化学物質取扱無し	削減率	基準値に対し	100.0%	100.0%	○	
	kg	0.00	0.00	0.00		
	原単位	0.00	0.00	0.00		
不良率の削減	削減率	基準値に対し	5.0%	27.6%	○	27.6%の削減
	万円	508	483	323		
	原単位	0.0047	0.0045	0.0034		
グリーン購入比率の向上	件数	既存品切換え	年1件以上	3件 (ITカッター他)	○	継続して購入の都度 切替を行う
環境配慮型事業活動① ゼロエミッション推進	定性目標	廃棄物のリサイクル率 アップ/流通改善	年1件以上 実施	1件 (水処理)	○	県ゼロエミッション補助金事業 (水処理)継続使用
環境配慮型事業活動② SDGsの実践	定性目標	社会課題への対応・取組み	年1件以上 取組み	1件 (紹介・周知)	○	委員会でのSDGs 取組み紹介・周知

5. 環境負荷の推移と評価

生産対比使用量 電気(kwh)

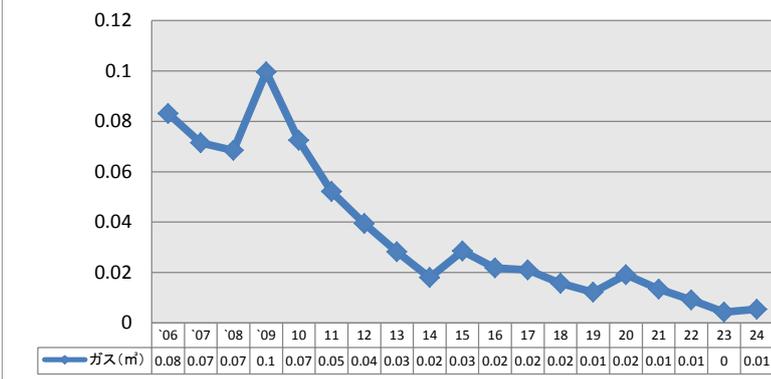


【電気】

電気年間使用量
 2006年度 2,261,283 kwh
 2024年度 1,587,173 Kwh
 ‹削減率29.8%›

生産は増加したが、使用料の削減に成功した。

生産対比使用量 ガス(m³)

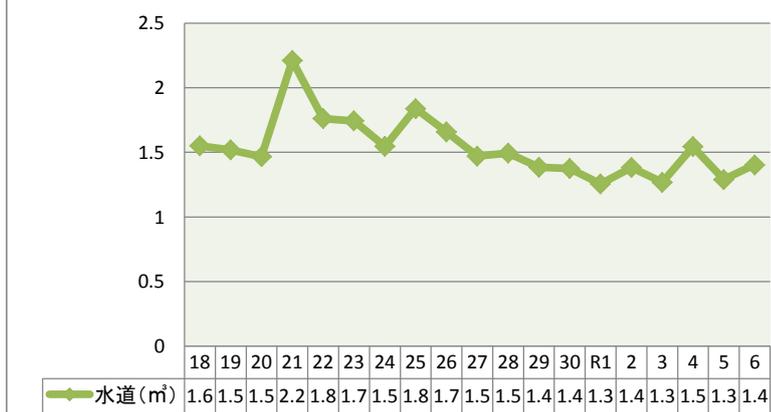


【LPガス】

LPガス年間使用量
 2006年度 103.0 kg
 2024年度 4.9 kg
 ‹‹削減率95.2%››

ガス使用量は、使用量「ゼロ」を実現できる体制となった。

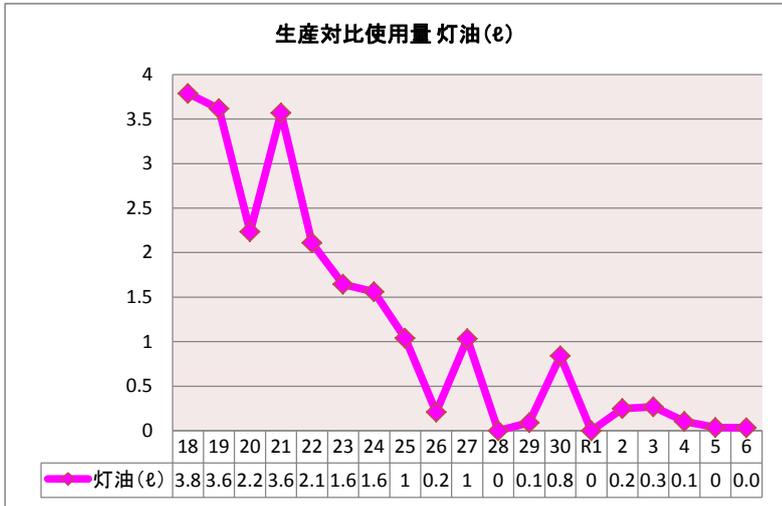
生産対比使用量 水道(m³)



【水道】

水道年間使用量
 2006年度 1,899 m³
 2024年度 1,329 m³
 ‹‹削減率30%››

こまめな節水や使用方法の改善は行われているが、削減率は伸び悩んでいる。
 前年度より増加した原因として、漏水の影響が大きいと思われる。



【灯油】
 灯油年間使用量
 2006年度 639 L
 2024年度 0 L
 ≪削減率100%≫

灯油使用量は使用量「ゼロ」を実現できる体制となった。

前年度まで使用していた灯油ストーブを電気に今期は変更を実施した。

暖房はエアコンのみとなっており、来年以降も灯油使用は全廃とする見込み。



【廃棄物】
 2006年度 124 t
 2024年度 64.2 t
 ≪削減率 48.2%≫

産業廃棄物の年間総排出量も、原単位当りの排出量も年々削減されている。

令和6年度は汚泥の回収量が前年比約23.5%にまで排出量を抑えることができた。
 また、全従業員の排出抑制の動きも進んできている。

6. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

組み計画			取組結果とその評価		
	環境目標	実績	達成 状況	次年度	評価及び次年度の取組内容
二酸化炭素排出量削減					
生産金額当たり原単位	8.18	7.70	○	継続	
電力の二酸化炭素排出量削減					
生産金額当たり原単位	8.17	7.69	○	継続	使用料、原単位ともに削減することができた。節電への意識が向上してきている。今期は省エネ対応のエアコンに一部変更を実施した。また省エネ診断を実施した。結果を基に更なる節電を目指していきたい。
空調温度の適正化（冷暖房26℃）			○	継続	
こまめな節電と消灯			○	継続	
エアコン、集塵機、機械装置のフィルタ定期清掃			○	継続	
設備機械、OA機器等の待機時節電			○	継続	
クール、ウォームビズの実行			○	継続	
自動車燃料使用による二酸化炭素排出量削減					
生産金額当たり原単位	0.0083	0.0115	×	継続	目標値を2022年度へ変更を実施したが、短期への対応等があり達成はできなかった。様子を見て基準値の再変更が必要か検討していきたい。公共交通機関利用も実施した。今後も左記機関利用頻度を増やしていきたいよう検討する。
エコドライブの実践			○	継続	
走行距離記録			○	継続	
社有車使用抑制（公共機関利用、ネット購入等）			○	継続	
エコドライブ講習への従業員派遣			×	都度実施	
一般廃棄物排出量の削減					
生産金額当たり原単位	0.26	0.37	×	継続	不達成だった原因としては工場全体で5S活動（整理）を実施した為、その影響があったと思われる。裏紙の利用促進については従業員が優先的に使用しているため順調である。
裏紙利用による廃棄物発生抑制			○	継続	
レアメタル等分別徹底によるリサイクル化推進			○	継続	
産業廃棄物排出量の削減					
生産金額当たり原単位	0.69	0.30	○	継続	今期は昨年同様砥石屑の排出量の減少の他、汚泥の排出量も削減することができた。
産業廃棄物処分依頼方法の改善（リサイクル化）			○	継続	
産業廃棄物排出重量の軽量化			○	継続	
水道水使用量の削減					
生産金額当たり原単位	0.0118	0.0140	×	継続	水道の閉め忘れが目撃されたため、安衛生委員会にて注意喚起を実施。また、後半に漏水が発覚し使用料の増加につながった。
廃アルカリ水の再生処理装置利用促進			○	継続	
節水表示の取付と節水徹底			○	継続	
化学物質使用量の削減					
生産金額当たり原単位	0	0	—	継続	PRTR法対象物質は工場内で使用していない。新規導入品については、PRTR法、RoHS指令、安全衛生法等様々な項目を考慮。今後も継続する。
PRTR法に該当する製品の切換え不使用			○	継続	
新規購入品の製品データ確認による対象物使用回避			○	継続	
不良率の削減					
不良集計と分析	0.0045	0.0034	○	継続	原単位・金額共に目標達成した。
グリーン購入比率の向上					
グリーン購入対象製品への積極的な切換え			○	都度実施	新規購入品の製品データ確認及び既存使用品のグリーン購入対象品への切換えを順次実施。
取引先グリーン調達基準への対応			○	都度実施	
社会貢献					
地域の環境保全活動への参加（年1回）			×	継続	会社周辺清掃を春に実施した。社会貢献活動は年2回献血協力を行っている。商工会主催の祭りにも参加。
ボランティア活動、社会貢献活動への参加			○	継続	
環境配慮型事業活動①ゼロエミッション推進					
廃アルカリ液の再利用装置の導入検討			○	継続	レアメタルの回収に関して、新たな材質の取引を開始した。また、在庫状況の見直し・適正量の把握を実施した。ゼロエミッションを進め、捨てる事の無い環境配慮型の事業展開を更に進める。
レアメタル鋼材・廃棄工具の分別リサイクル化			○	継続	
廃棄物リサイクル率のアップ			○	継続	
環境配慮型事業活動②SDGsの実践					
社会課題への積極的な取組み検討と社内問題改善			○	継続	今年度は社用車がリースへ変更となった。SDGsの社内展開を今後進めて行く。今年度は自身が実施できる事例の紹介並びに、インターンシップを実施した。
ターゲット9「産業と技術革新の基盤づくり」取組			○	継続	
代表者によるSDGs推進意志表明			○	継続	

※「灯油、LPガス使用による二酸化炭素排出量削減」は、全廃する予定のため記載なし。

7. 次年度の環境経営計画

2025 年度の環境経営計画		取組内容			
電力の二酸化炭素排出量削減	環境目標	8.08			
空調温度の適正化（冷暖房26℃）	空調温度の適正化（冷房暖房26℃）				
こまめな節電と消灯	不在時の消灯徹底。待機電力の削減				
エアコン、集塵機、機械装置のフィルタ定期清掃	定期点検の実施				
設備機械、OA機器等の待機時節電	設定の洗い出しと待機省エネ設定				
クール、ウォームビズの実行	空調に頼らない衣服での調節				
電力以外の二酸化炭素排出量削減	環境目標	ガソリン	0.0082	灯油	0 LPG
エコドライブの実践	タイヤ圧定期チェック・エコドライブの実践				
走行距離記録	用務の見直しと燃費向上検討				
社有車使用抑制	公共機関利用、ネット購入等				
エコドライブ講習への従業員派遣と実施	急ブレーキ、急発進等抑制の呼びかけ				
一般廃棄物排出量の削減	環境目標	0.25			
裏紙利用による廃棄物発生抑制	裏紙利用の徹底				
レアメタル等分別徹底によるリサイクル化推進	使用済みレアメタルの再資源化推進				
産業廃棄物排出量の削減	環境目標	0.69			
産業廃棄物処分依頼方法の改善（分別、保管方法）	最終処分量の削減とリサイクル化（ゼロエミ）				
産業廃棄物排出重量の軽量化	廃棄物の軽量化改善と排出量圧縮				
水道水使用量の削減	環境目標	0.0117			
廃アルカリ水の再処理装置利用促進	廃アルカリ水の再生処理				
節水表示の取付と節水徹底	節水表示更新と水道不具合の修繕				
化学物質使用量の削減	環境目標	0.00			
PRTR法に該当する製品の切換え不使用	（現状では対象物無し。該当品は随時対応。）				
新規購入品の製品データ確認による対象物使用回避	SDS管理と環境配慮品の選択				
不良率の削減	環境目標	0.0044			
製品不良発生の抑制	不良集計と分析				
グリーン購入比率の向上	環境目標	年1件以上			
グリーン購入対象製品への積極的な切換え	年1件以上切換えを実施				
取引先グリーン調達基準への対応	随時対応。各社調達基準を厳守。				
社会貢献	環境目標	年1件以上			
地域の環境保全活動への参加（年1回）	会社及び会社周辺の環境保全活動実施				
ボランティア活動、社会貢献活動への参加	自主的・積極的に活動への参加（献血等）				
環境配慮型事業活動①ゼロエミッション推進	環境目標	活動継続			
廃アルカリ液の再利用装置の運用	研削液廃液処理・汚水処理の推進				
レアメタル鋼材・廃棄工具の分別リサイクル化	分別回収の徹底				
環境配慮型事業活動②SDGsの実践	環境目標	活動継続			
社会課題への積極的な取組み検討と社内問題改善	エコ活動とSDGs活動の関連付け啓発活動				
ターゲット9「産業と技術革新の基盤づくり」取組	多能工推進、作業改善、改善活動会議				
代表者によるSDGs推進意志表明	SDGs活用による企業経営の実践				

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認

■ 8-1. 環境関連法規

適用法	対象施設・項目	適用される要求事項（事業活動）
環境基本法	環境目標の達成状況	環境負荷軽減、環境保全、国・地方公共団体への協力
環境保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律	環境教育	職場の環境教育、安全衛生委員会・EA21委員会での啓蒙活動
フロン排出抑制法	業務用空調機	フロン類の大気放出禁止、業務用空調機の機器点検記録保存、算定漏えい量報告
騒音規制法	コンプレッサー 排風機 局所排気装置	指定地域に特定施設を設置した場合の届出と規制基準の遵守
振動規制法	コンプレッサー	指定地域に特定施設を設置した場合の届出と規制基準の遵守
循環型社会形成推進基本法	廃棄物全般	廃棄物の適正な循環的利用または処分
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 （廃棄物処理法）	一般廃棄物 産業廃棄物 水銀使用製品産業廃棄物 廃プラ・廃油 廃酸・廃ガラス等	廃棄物の抑制、適正処理（保管・運搬・処理委託基準の遵守）、生活環境の清潔、公衆衛生の向上、（水銀）特別管理産業廃棄物処分業者への委託等
特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	エアコン、冷蔵庫、TV等	特定家庭用機器廃棄物排出の際のリサイクル料の負担
使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 （小型家電リサイクル法）	小型家電	分別して排出
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律 （グリーン購入法）	環境配慮型物品	調達における環境物品等の選択・調達の推進
使用済自動車の再資源化等に関する法律	営業車	所有者の使用済自動車再資源化等預託金負担、自動車の廃棄・使用済自動車の引渡し義務
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	コバルト等	特定化学物質の製造・輸入・使用等の規制基準の遵守
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 （P R T R法）	コバルト等	化学物質の自主的管理改善、化学物質排出移動量届出、化学物質管理目標達成状況報告
工場立地法	工場・社屋	敷地・建築面積の届出、変更届
都市緑地保全法	工場・社屋	保全地域での建築・造成・埋立・伐採等は届出
消防法	工場・倉庫	火災報知器設置、消防用設備点検・報告、消防訓練の計画・実地報告書提出、危険物取扱（少量危険物）の表示、指定可燃物の届出
道路車両運送法	営業車	自動車の保安基準に適合するよう維持、日常点検、定期点検の実施と記録
道路交通法	営業車	道路交通法違反の防止

■ 8-2. 違反・訴訟等

関係法規遵守チェックの結果、環境関連法規への違反・訴訟はありませんでした。
また関係当局よりの違反等指摘は過去3年間ありませんでした。

9. 代表者による全体の評価と見直し結果

見直し実施日	2024年12月25日 (<input checked="" type="checkbox"/> 定期見直し <input type="checkbox"/> 臨時見直し)			
見直し対象期間	2023年10月1日～2024年9月30日			
代表者	東北工場 工場長 宇那田 裕			
見直しに必要な情報	①環境関連法規の順守状況（環境関連法規等取りまとめ表兼遵守確認評価表による）			
	②環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果（環境経営計画兼実績書による）			
	③適用範囲、実施体制			
	④問題点の是正処置及び予防処置の結果（是正／予防処置報告書による）			
	⑤外部からの環境に関する苦情等の受付結果（外部コミュニケーション記録による）			
	⑥その他（法規制の動向や取引先からの「グリーン調達」の情報等）			
代表者による評価	【環境経営システムが有効に機能しているか】 （①、③、④、⑤等を踏まえて評価）			
	環境経営システムは現在のところ有効に機能している。 法規制の順守状況に問題はなく、外部からの苦情も発生していない。 担当者任せにしている社員もまだいるので、各人が自分の役割を理解して取り組む必要がある。			
	【環境経営への取り組みが適切に実施されているか】 （②等を踏まえて評価）			
	目標項目	目標達成状況	経営計画実施状況	
	目標・経営計画実施状況の評価（達成の場合：目標設定の方法や取り組み方法の問題点、次年度の方向性 未達の場合：原因の明確化、次年度の目標や対応策）			
	CO2排出量の削減	○	○	生産量微増に対し電力使用量が削減できたことは、一人ひとりの節電に対する意識の向上が挙げられる（こまめな切電など）。一方で、社用車による燃料使用量増加については地元取引案件の増加や運送業界のいわゆる2024年問題の影響が重なり未達成だったので、新たな対策を早急に検討する。
	廃棄物排出量の削減	△	○	リサイクル化は継続して取り組んではいる。但し、業務内容が汚泥が排出される工程よりも切粉が排出される工程の仕事が増加した影響とも言える。
水使用量の削減	×	○	工場の老朽化による漏水とみている。早急に業者に依頼し対応はしているが、4月頃に大きく掘削して再度確認を実施する。	
化学物質使用量の削減	○	○	PRTR適用品の新規導入も無く、SDS等製品情報も把握されている。取引先の環境基準にも対応。引き続き維持管理を徹底。	
不良率の削減	○	○	達成ではあるが、同じ内容での不良が目立つ。対策の質を向上させ、対策の実施状況の確認を強化する必要がある。	
代表者による見直し	【環境経営方針】 変更の必要性： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無			
	新体制になった為、2024年10月に改訂済み			
	【環境経営目標及び環境経営計画】 変更の必要性： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無			
	現在の環境経営目標及び環境経営計画を維持する。			
	【実施体制】 変更の必要性： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無			
	現在の実施体制を維持する。			
変更の必要性の有無・変更が必要な具体的な指示事項	【環境経営システム】 変更の必要性： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無			
	環境経営システムの見直しは行わないが、運送業界の動向を注視して対策を検討する。			
	【総括】			
仕事内容の各工程増減により、従来とは変わった排出量になってきている。変わったとしても、リサイクル化など手を緩めず引き続き取り組みを実行すること。漏水による水使用量増加については、依頼先と協議し漏水箇所の発見を早期に実施し、老朽化した止水栓などは必ず交換対応する。				

注) ①是正が必要な場合は、臨時に見直しを行うこと。

②事業年度が終了したら、速やかに終了事業年度（登録審査の場合は登録の運用期間）の見直しをすること

③事業内容の変更や重大な事故・不適合が生じた場合等の時は、臨時の見直しをすること。